

第20回記念（栃木県宇都宮市） 日本認知症グループホーム全国大会

2018.8.3 大会実行委員会ニュースNO.5 TEL 03-5366-2157

中村 祐 先生の教育講演 「グループホームで見られるBPSDとその対応」



今大会の「教育講演」には、認知症グループホームをはじめ、介護現場の状況にも大変詳しい中村祐先生が、今大会に初めて登壇してくださいませ。

先生は、抗認知症薬の研究・開発に携わってきたことで知られていますが、介護現場や認知症の人と家族の会の要請に応じて、分かりやすいお話しをさせていただきます。

かつて先生の講演を聞いた介護職のYさんは、「介護職が認知症についての知識を高め、生活の場でしっかり症状を捉える事と対応力を高めることが大切と励ましてくれました」と話しています。

中村 祐（なかむら・ゆう）先生 香川大学医学部精神神経医学講座 教授
略歴

昭和61年大阪大学医学部卒。スウェーデンカロリンスカ研究所老年医学講座客員教授（平成13年6～12月）、奈良県立医科大学などを経て平成17年7月より現職。その他、精神保健指定医、臨床心理士、日本認知症ケア学会理事、日本老年精神医学会理事、「認知症の人と家族の会」香川県支部世話人（代議員）など。

アルツハイマー型認知症の生化学的な病態の解明の研究を行って来るとともに、アルツハイマー型認知症の治療薬の開発に長年にわたり関与。新規のアセチルコリンエステラーゼ阻害薬やメマンチンの開発に初期段階から関与しました。

2011年10月からは香川県認知症疾患医療センター長に就任。

グループホームケアの「有効性」を全国調査 山口晴保委員長から調査結果を報告

入居後のBPSDとQOLが向上することを客観的に検証 《シンポジウムの基調講演で》

山口晴保先生

認知症グループホームでのケアを、客観的に評価することは難しいとしてこれまでは取組みが十分ではありませんでした。協会広報誌「ゆったり」(5.6月号)にも掲載されましたように、平成29年度老人保健健康増進事業として研究が行われ、BPSDの改善やQOLが高まることが解明されました。

この研究は、グループホーム関係団体が協力して検討委員会を構成し、調査も団体の枠を超えて全国的な規模で行われました。今年度もこの研究事業は継続され、さらに「長期的、かつどのようなケアが効果的なのか」等を明らかにすることとなります。この基調講演とシンポジウムにご期待を！



※大会の参加申込み締切りは8月31日（金）まで延期しました。この後も、早めに申込みいただく抄録の事前送付が可能です。

（開催要項等詳細は協会ホームページ（<http://ghkyo.or.jp>）参照）

お問合せ 第20回記念 日本認知症グループホーム大会実行委員会事務局

Tel 03-5366-2157 FAX 03-5366-2158 担当 片山